

第四次 海士町総合振興計画

島の幸福論

—海士ならではの笑顔の追求—

まず、はじめに

海士町では、10年に一度「総合振興計画」というまちづくりの計画をつくっています。

これは、今後10年、海士町はどんな町を目指すのか、それを実現させるためにはどうすればいいのか、さまざまな分野にわたって計画を練ったものです。

過去には、平成元年に「クオリティ・ライフへの出発」、平成11年には「キンニャモニャの変」をテーマとした海士町総合振興計画をつくりました。

観光施設などの基盤整備、特産品の開発や地域のブランド化、それらに関わる人材育成など、この総合振興計画による成果は多岐にわたっています。

また、成果だけではなく課題もありました。まずは、その課題をしっかりと見つめ直すことからはじめました。

住民から見た理想の海士町とその課題

理想の海士町とその課題については、海士町で活動する個人や活動団体、企業、自治会等へのヒアリングや、行政職員を対象としたワークショップ、海士町の未来を考える会（総合振興計画策定にあたっての説明会）などにおいて、町民241名の方々から頂いた意見をもとに抽出しました。主な意見は以下のとおりです。

【「ひと」に関する意見】

- ・ 交流の場、意見を交換する場がほしい。
- ・ 学校教育や学びの場を充実させたい。

【「産業」に関する意見】

- ・ 一次産業を復興したい。
- ・ 循環型の産業や環境に配慮した産業に取り組みたい。

【「暮らし」に関する意見】

- ・ 移動や買い物などの利便性をよくしたい。
- ・ 島だからこそできる幸せな暮らしを実現したい。
- ・ 医療と福祉サービスを維持してほしい。

【「環境」に関する意見】

- ・ 環境保全と保護に取り組みたい。

- ・ エネルギーの転換やゴミ問題に取り組みたい。

【「まちづくりの課題」】

- ・ 多くの住民が、海士町のこれまでの総合振興計画の内容や目指している方向性を知らない。
- ・ 多くの住民が、自分自身がまちづくりとして何をすればいいのかわからない。

この結果、多くの住民の方々はこれまでの総合振興計画の内容や目指している方向性を知らず、まちづくりとして自らがすべきことが分からないという意見が多くありました。そのためこれらの意見と課題に基づいて、第四次海士町総合振興計画づくりがはじまりました。

住民参加で計画をつくる

そのまちづくりの第一歩として、住民がまちづくりに参加できる新たな枠組みをつくりました。この総合振興計画づくりには直接住民が参加するという海士町初の試みです。

昨年、公募による住民と役場の若手職員を合わせた約60名で構成された「海士町の未来をつくる会」を結成し、総合振興計画の素案を作成しました。

第四次総合振興計画をつくるにあたって、「海士町の未来をつくる会」に参加した住民のみなさんは、はじめは興味をあまり示さなかったものの、会を重ねるごとに自分を語り、自分の未来を語り、海士町の未来と重ね合わせて将来を考えるうちに、海士町の将来について平日・休日問わず何度も深夜まで語り合うほど、まちづくりに対する興味が高まりました。

話題にすると、気がつくことがある

その結果、私たちは、今や都市では手に入れることができなくなった、多くのことを大切にしていることに気づきました。

また一人ひとりが、海士町に住む幸福について考えることが必要だということにも気が

理念は四つ



ひとの視点

理念
「心が満たされる島」



暮らしの視点

理念
「幸せを実感できる島」



産業の視点

理念
「手づくりのある島」



環境の視点

理念
「美しい風景を残す島」

づきました。さらに、海士町住民どうしが一緒に幸せを感じ合える、分かち合える町にするにはどうしたらよいか、また、海士町のさまざまな課題をどう解決していくのかも考えなくてはなりませんでした。

そこで知恵を出し合い、協力し、実践することこそが、まちづくりなのだということになり、一年かけて議論し、住民の声を反映した第四次海士町総合振興計画が完成しました。

テーマは

「島の幸福論」！

第四次海士町総合振興計画のテーマは、「島の幸福論」です。これまでの計画の必要な部分は継承し、新たな時代の流れや海士町が抱える課題に対応した、持続可能な島の実現を目指すことに加え、住民一人ひとりの「幸せ」が大きなテーマになっています。

海士町に住むことで、いかに幸せを感じられるか。物質的豊かさ、先の見えない不

安が背中合わせの現代だからこそ、これからのまちづくりには、「住民の幸せの追求」が重要だと考えています。

あなたと一緒に海士が育つ！

住民一人ひとりが「幸せ」を実感できる町を実現するために、第四次海士町総合振興計画のダイジェスト版として「(仮称)海士町をつくる24の提案」がつけられました。

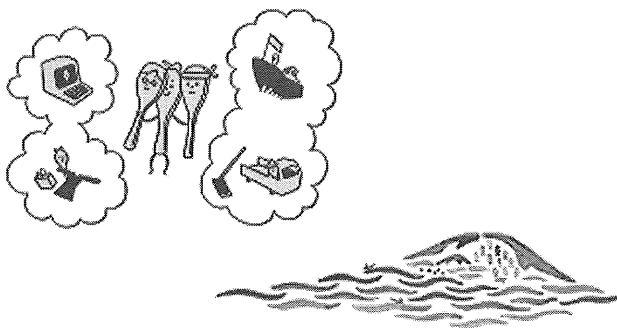
後日、全戸に配布する冊子は、住民一人ひとりがまちづくりに参加し、「海士町に住む幸せ」を実現するためにはどうしたらよいのかを解説するガイドブックの役割を担っています。

「海士町に住んでよかった」「海士町に住み続けたい」。ひとりでも多くの住民が、そう感じられる海士町にするために、一人でもできること、10人でできること100人でできること、1000人でもできること、と人数別にまちづくりのアイデアが提案されています。またこの冊子は、中学生か

ら高齢者までがわかるように絵本のような構成になっています。

まちづくりに参加するための年齢制限はありません。まちづくりの主人公はあなたです。まずは、まちづくりについて語ることからはじめてみませんか？

さあ、この本(全戸に後日配布する冊子)を片手に、未来の海士町を一緒に作りましょう！



さいごに

ここまで計画をまとめるにあたっては、海士町の未来をつくる会の「ひとチーム」、「産業チーム」、「暮らしチーム」、「環境チーム」、計画策定委員のみなさん、計画策定委員会委員のみなさんなど、たくさんの方々のご協力を得ました。協力してくださった委員のみなさま、住民のみなさまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今後は、海士町の未来をつくる会で提案されたまちづくりの具体提案を基に、まちづくりに参加したいと考えている新たな住民の方々を募る場や、本計画で提案したことを実行する場を新年度から設ける予定です。

60人の輪が、100人の輪となり、1000人の輪となり、より多くの人がまちづくりに挑戦し、「島に生きる幸せ」を実感してくれることを心より願っています。

海士中学校16期生同窓会



海士中 16 期還暦同窓会 平成 21 年 1 月 24 日 (皆生温泉 華水亭)

更なる飛躍を

1 月 24 日 (土)

米子市皆生温泉において、海士町の歌姫国村千鳥さんを含め、総勢 89 名が参加し、還暦同窓会 (昭和 24 年、25 年生まれ) を雪模様の中、また、心配していたフェリー欠航をよそに無事敢行しました。この還暦同窓会に、参加者増員したことがありがたいと地元 (海士町) 世話役の方から聞いています。

なお、広報海士 1 月号 (No. 417 号) によりますと、還暦在島者は 47 名と聞いていますが、どこにいても我々海士中 16 期生同窓生は、ふるさと海士町に最善を尽くすつもりです。

(海士中 16 期還暦同窓会
投稿者 松野俊夫)

ブレント先生の「外国人の新鮮な目で海士を見て」

フレッシュ・アイズ・オン・あま Vol.7

この 2 年間で撮った写真をちらつと見ると松江市で「一人は万人のために万人は一人のために」というスローガンが写ったのがあった。日本語の下に英語で「Each for all, all for each」が写っている。

この写真を撮った時、僕はきつとこの英語はおかしいなと思ったかもしれない。実際にこのスローガンを英語に直すと、「One for all, all for one」になる。違いは Each と One がある。Each は確かに「一」という意味があるけど、each だけを使うともともと「一つ」という意味だ。One は違って、one だけを使うと「一人」という意味である。

しかし、言いたいのはこれだけではない。6 年前ある生徒に言われたことを思い出した。僕は彼に「僕の日本語は全然駄目かな」とため息をついて言った。そうすると、彼は「通じればいいや」と言い返してくれた。

話す相手に言いたいことや伝えたい意味が通じればいいということだろう。つまり言葉、文法、ジェスチャー、態度などを間違えても、気持ちを伝えるのが一番大切だ。僕は自身はそういうことが出来れば通じるだろうと思っているけど、やはり勉強もしないといけない。

自分の進路、自分の夢と言え、海士町に来てこれから日本語の先生を目指して頑張りたいと思う。つまり今の僕の日本語が日常の会話では十分だろうが、もっと勉強しないと先生になることはできない。こんな時に意味が通じるだけでは済まない。

今回は諺で終わりたいと思う。「Opportunity only knocks once.」つまり意味を調べてみてください。

※ご本人が日本語で書いたものをそのまま載せています。

合格おめでとう!!

- 第 256 回全国珠算学校連盟珠算暗算検定合格者 (1 / 25 実施)
- 3 級 山戸 莉緒 (豊田)
 - 8 級 梅田 桃実 (宇受賀)
- 第 212 回暗算検定
- 2 級 佐々木梓沙 (福井)
 - 3 級 浮田 萌絵 (宇受賀)
 - 5 級 佐藤 光瑠 (東)
- 第 152 回全国商工会珠算検定合格者 (2 / 15) 実施
- 4 級 浮田 萌絵 (宇受賀)
 - " 真野里帆菜 (北分)
 - 5 級 宇野 由華 (北分)

広報海士からのお願い

いつも広報海士をご高覧いただきましてありがとうございます。

春は進学・就職・転勤等の時期ですね。広報の発送先の住所変更や新たに広報海士の発送を希望される方は係まで一報下さればお送りいたします。

役場総務課広報係

TEL 08514②0115



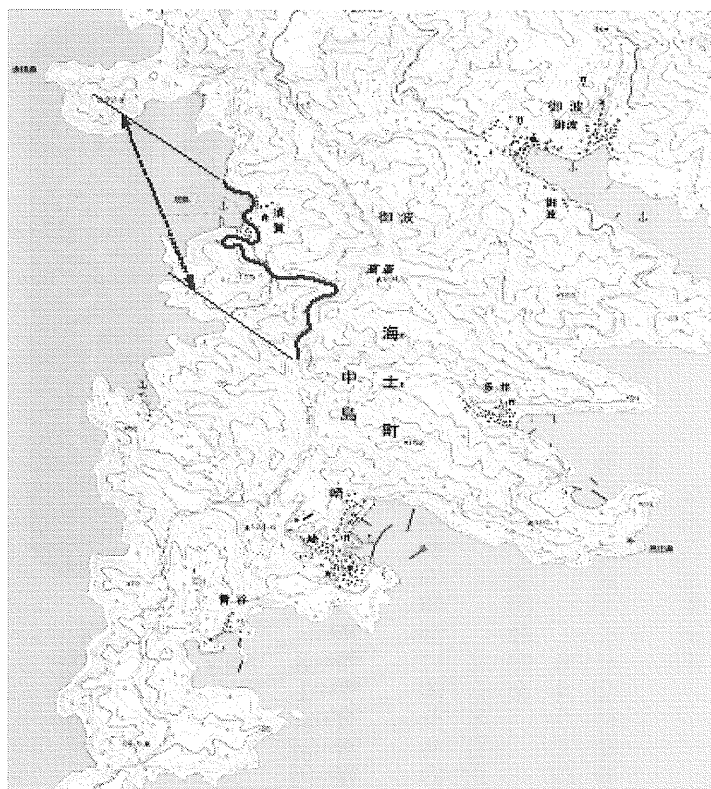
町道日須賀〜崎線

いよいよ着工！ 念願！ 崎・多井・日須賀の幹線道路

海士方地区と上方地区とを結ぶ一般県道「日之津崎港線」は、異常気象時には落石・土砂崩壊の危険性から通行規制となる区間で、迂回路はなく、崎・多井地区が孤立する恐れがありました。

その後、平成19年度から用地買収を行い、平成21年2月にいよいよ工事着工の運びとなりました。

その間、地元関係者の皆様をはじめ、関係地権者の皆様には、本事業の趣旨に御理解頂きながら大変貴重な土地を分けて頂き、お陰様をもちまして工事着手に至った事に対し、紙面より厚くお礼を申し上げます。



子どもたちの提案に 隠岐國商工会が呼応

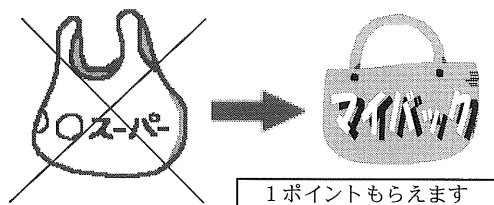
ひとりのエコが
地球を救う！
ポイントがたまると
ごみ処理券に交換できる
特典があります。

レジ袋を断った方にエコポイントを1個、15ポイントでゴミ処理券1枚がもらえます！

今年の4月から、レジ袋削減に向けた取り組みを隠岐國商工会が行います。昨年2月の子ども議会で提案のあった「エコポイントカード」を隠岐國商工会が作成し、この事業に加盟する協賛ステッカーの貼つてある商店で買い物するお客さんが、マイバッグや買い物かごを持参してレジ袋を断ると、エコポイントを1つももらえます。

15個エコポイントが貯まるとゴミ処理券1枚と交換する仕組みです。役場では、ゴミ処理券を無

地球を守ろう！



地球温暖化防止とゴミの減量化対策の一環として、町民の皆さんお気軽に取り組んでみませんか？

料提供してこの事業とタイアップします。エコポイントカードと協賛店舗用ステッカーのデザインと標語は、子ども議会で提案してくれた子どもたちにお願ひしました。例えば毎日買い物をする方が毎回レジ袋を断ると、1月で30ポイント貯まります。ゴミ処理券2枚分です。その方の家庭が可燃ゴミを毎週2回1月で計8回出すとすると、そのうち2回分は無料でゴミが出せることになり結構お得になると思います。

☆ 防災行政無線放送に についてのお知らせ ☆

最近、防災行政無線放送依頼が重なり、日によっては大変長時間にわたって放送する場合があります。放送するにあたってはなるべく簡潔にお伝えできればと考えています。もしも、放送を聞き逃すようなことがありましたら左記の番号へダイヤルすると聞き直すことができます。

なお、通話料は個人負担となりますのでご了承下さい。

防災行政無線放送を聞きもらしてしまった！

2局の『と お な い』放送と覚えます。

2-1071へ電話しましょう！

放送が終わって3分後から、放送内容をさかのぼってもう一度聞くことができます。

(※番号はくれぐれもお間違えのないようにお願いします。)